

# 「微笑み」をください♡

ーレオナルドに挑戦！

モナ・リザの「微笑み」を描こうー

保富仁之(和歌山県立田辺高等学校)

和歌山県立田辺中学校3年生 指導：保富, 2011



## 題材コンセプト

○ 絵画様式の単なる模倣ではなく、身体的な活動を通して様式の知的理解を促すとともに、表現と鑑賞が融合した発展的な活動に繋がる題材である。

○ 生徒の知的発達を考慮しながら、中学校において油彩画の古典技法を体験させ、その理解を促す。

○ レオナルド・ダ・ヴィンチをテーマに、素描・油彩画・デザイン等の製作を通して、陰影法や遠近法による写実主義絵画の空間表現を理解させる。これらの実践は一つのシークエンスを形成する。



生徒作品 油彩/キャンバスボード 5cm×8cm

## 1. 題材について [題材観]

レオナルド・ダ・ヴィンチは、ルネッサンスの代表的な画家として、西洋絵画史の中でも重要な存在にある。また、彼が編み出した様々な技法は、今日でも写実主義絵画のある種の礎となっている。

本題材は、レオナルドの代表作である『モナ・リザ』を模写する活動を通して、彼の表現形式を追体験的に学ばせるものである。さらに、この追体験による表現形式の理解を基底とした新たな鑑賞ー生徒自身の新たな解釈と言い変えてもよいーや創造的な

自己表現が生み出されることに繋がっていく可能性を孕んだ題材である。

## 2. 学習目標

- (1) 油彩画の技法に興味を持ち、主体的な態度で表現や鑑賞ができる。レオナルドの作品に対する興味や関心を深める。[興味・関心]
- (2) 彼の特徴的な3つの技法をよく観察しながら製作を進めることができる。[発想・構想]
- (3) 古典的な油彩画技法の手順に従い注意深く製作を進めることができる。[創造的技能]
- (4) レオナルドの表現形式に則って、自己作品を評価できる。また、彼の技法や作品が如何にすばらしいかを説明できる。[鑑賞]

## 3. 学習の流れ・指導計画

### ■第一次：『モナ・リザ』の鑑賞

何故、この作品が絵画史の中でモニュメンタルな存在であるかを考えながら鑑賞する。(0.5時間)

■第二次：キアロスкуро (グリザイユ) の製作  
作品のモノクロコピーを参考にしながら、パーント・シエンナ/チタニウム・ホワイト/アイボリー・ブラックの3色を使って、褐色のモノクローム下地 (キアロスкуро) を作る。(1.5時間)

### ■第三次：レオナルドの技法を基にした彩色

①グラッシ (薄く溶いた透明感のある絵の具を何層にも塗り重ねながら描く技法)、②ヴェラチュエラ (不透明の絵の具を薄くこすり込んで表現する技法) と③スフマート (レオナルドが編み出した

物体の輪郭をぼかすことによって立体感を出す技法)の3つの技法を使いながら作品を彩色する。参照図版は最近の研究で明らかになった『モナ・リザ』の制作当時の色彩を再現したものを使用した。(3.0時間)

#### ■第四次：作品鑑賞と評価

ワークシートを使いながら、完成した作品の鑑賞と自己評価をする。(1.0時間)



第3次の彩色作業における生徒のパレット

#### 4. 指導のポイント・学習のフォーカス

○ 原作の図版をよく観察しながら製作を進めさせることが、この実践では重要な留意点となる。机間巡視をしながら具体的な部分を指摘し、事例をあげて参照図版と自己作品の比較を促すようにさせる。この活動を充実させることが、様式の理解だけな



く、作品をより深く鑑賞させることにも繋がる。

○ 古典技法独特の手順を踏む方法は、油彩画を初めて体験する中学生にとって、非常に理解しやすく、彼らの知的欲求を考慮しても有効な方法である。

○ 生徒の知的発達を考慮すると、実際の作品を異種素材によって模写する方法は、様式理解の効果が薄いと考える。近年、非常に安価な油彩画材が手に入るので、中学校でも油彩画の実習が行える。

#### 5. 鑑賞と批評

○ 今回の実践から、部分模写でも学習目標が十分に達成できると判断できた。また、部分模写のため生徒の集中力や観察力を持続・昂揚させ易いうえ、時間的な面でも有効な題材であった。

○ ワークシートに記された生徒の意見から表現形式に対する知的理解が深まったことや各自が工夫して形式を応用した様子等が見てとれた。



完成間近；なかなかの出来に笑みがこぼれる

○ 生徒は、出来上がった作品が「みんな違う」ことのおもしろさに気付くとともに、友達の表現の工夫や形式の応用にも理解を深めたようである。「微笑み返し」なる相互作品鑑賞法(タイトル横の図版参照)も編み出された。これは、完成作品を基にした自発的な表現方法とも捉えられて興味深い。